

頭蓋の解剖と治療

平成27年1月27日
介護老人保健施設フェアウインドきの
作業療法士 小松 顕

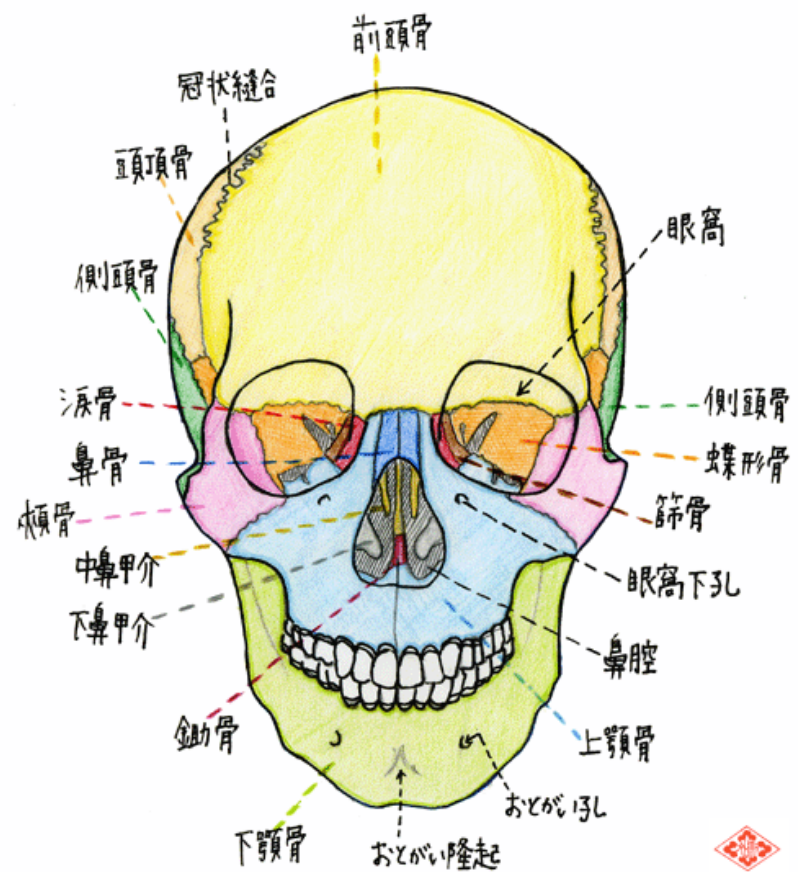
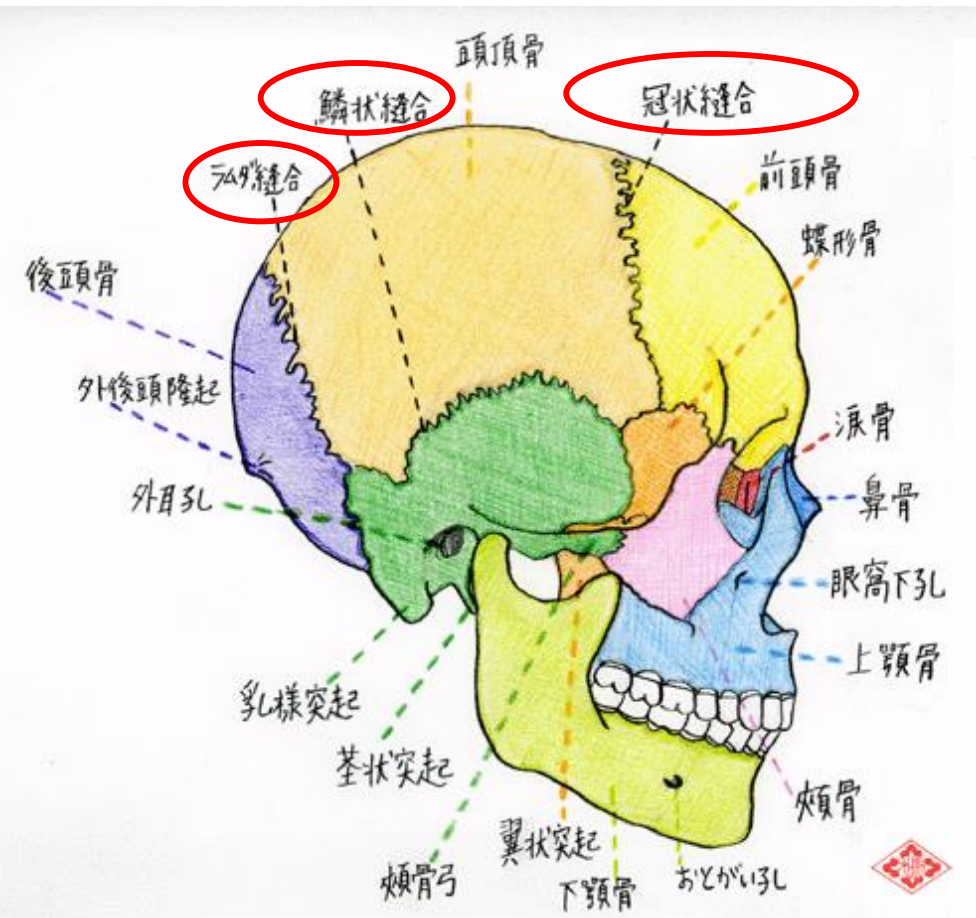
なぜ頭蓋骨を学ぶのか？

- 頭蓋骨の硬さとゆがみを改善
- 頭蓋仙骨リズムを改善し、自然治癒力の回復
- 硬膜をリリースし、脳脊髄液の循環を改善
- ⇒全身へ影響している頭蓋を繊細に調整

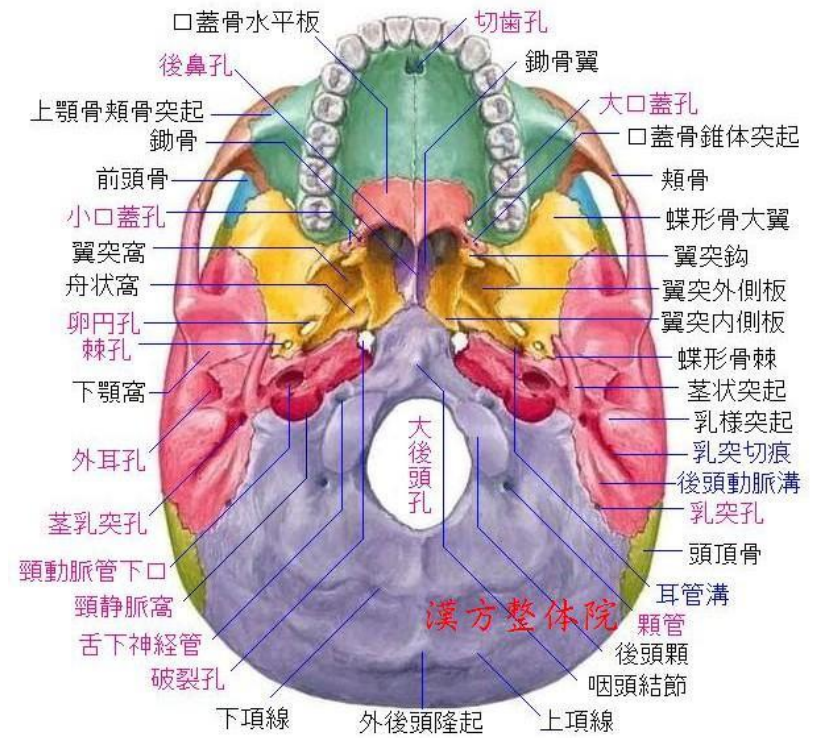
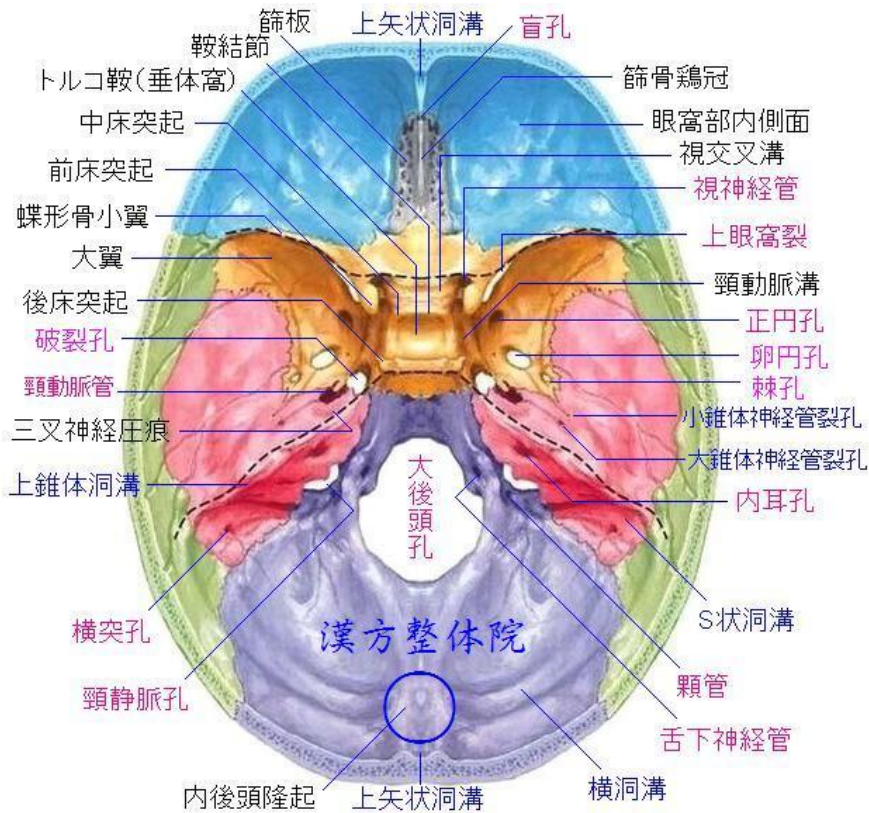
今回の主な学習内容

- 頭蓋骨の解剖を理解する
- 縫合を触診する
- 頭蓋骨リリースを実施する(変化の得やすい場所を中心に)
- ①側頭骨
- ②後頭骨
- ③頭頂骨
- ④前頭骨
- ⑤蝶形骨
- ⑥その他(後頭下筋、硬膜、鼻骨など)

頭蓋骨の解剖

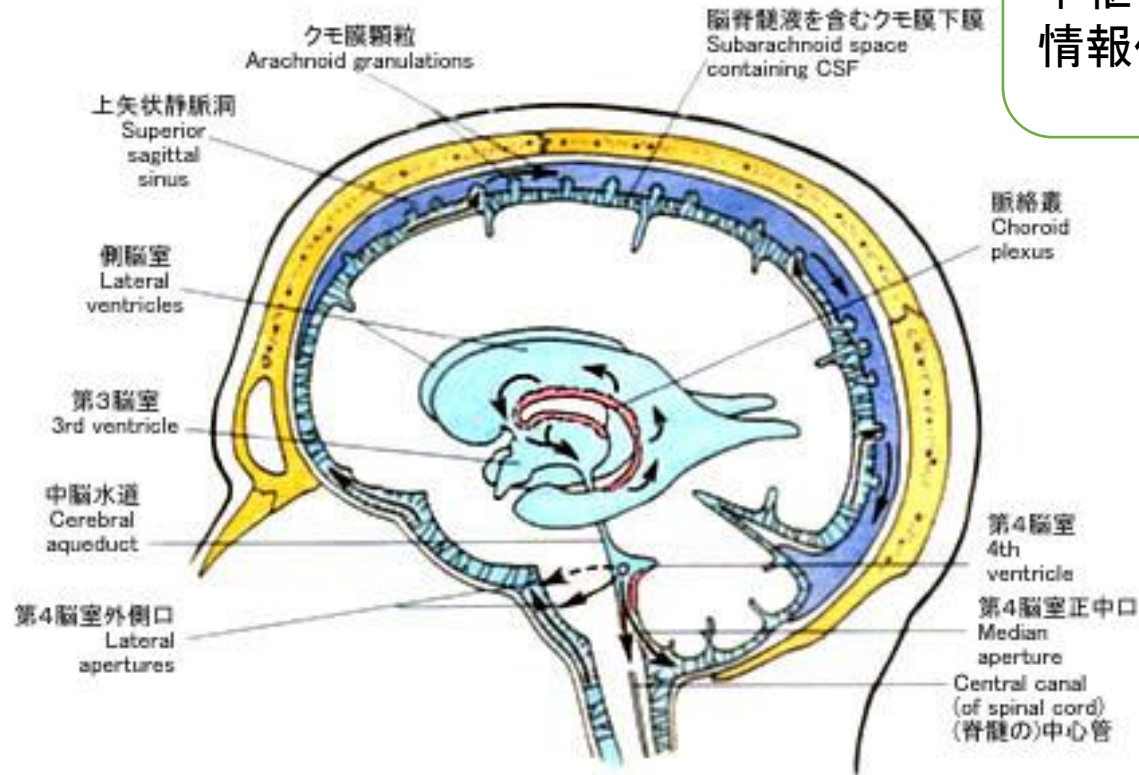


頭蓋骨の断面図



脳脊髄液の循環

中枢神経の緩衝媒体
中枢神経の栄養
情報伝達

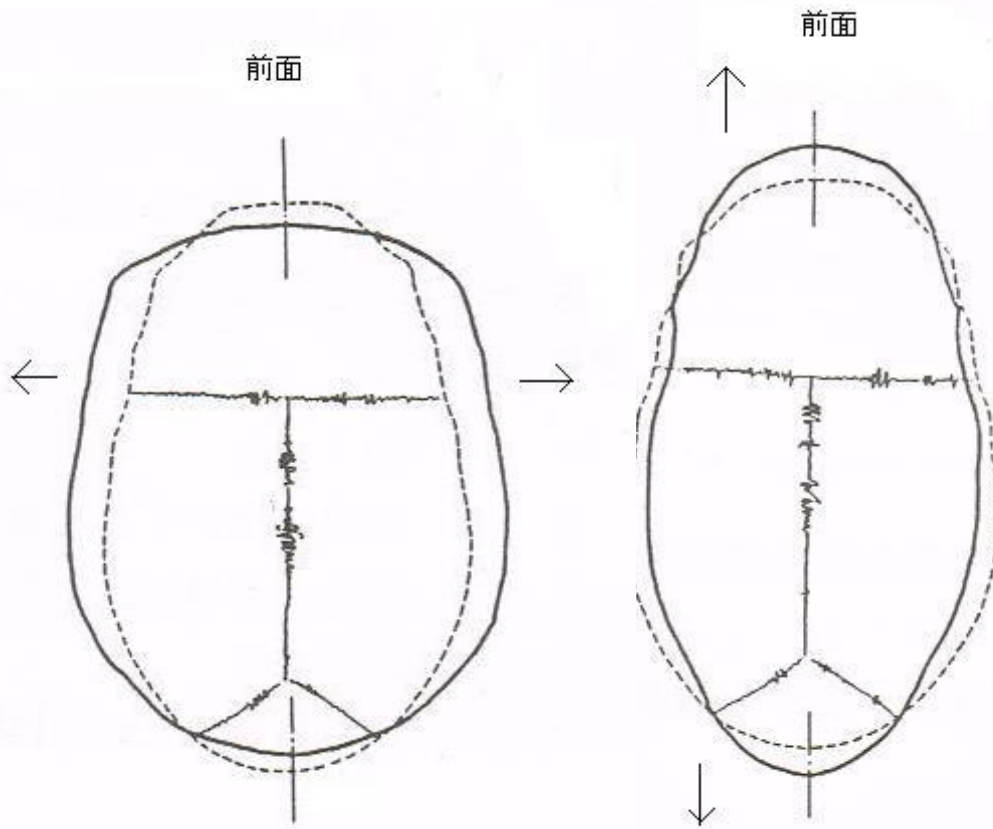


側脳室⇒第三脳室⇒第四脳室⇒マジャンディ孔・ルシュカ孔⇒クモ膜下腔
上矢状静脈洞とクモ膜顆粒から血液に吸収される
一日3回～5回入れ替わる

頭蓋骨が動く理由

- 脳脊髄液の循環を促すため
- 1分間に6～13回のサイクル
- その幅は0.02ミリで紙1枚分と言われている
(最大で0.8ミリ)
- 屈曲で左右が拡大、仙骨は後傾、下肢は外旋
- 伸展前後が伸びる、仙骨は前傾、下肢は内旋

頭蓋の屈曲と伸展



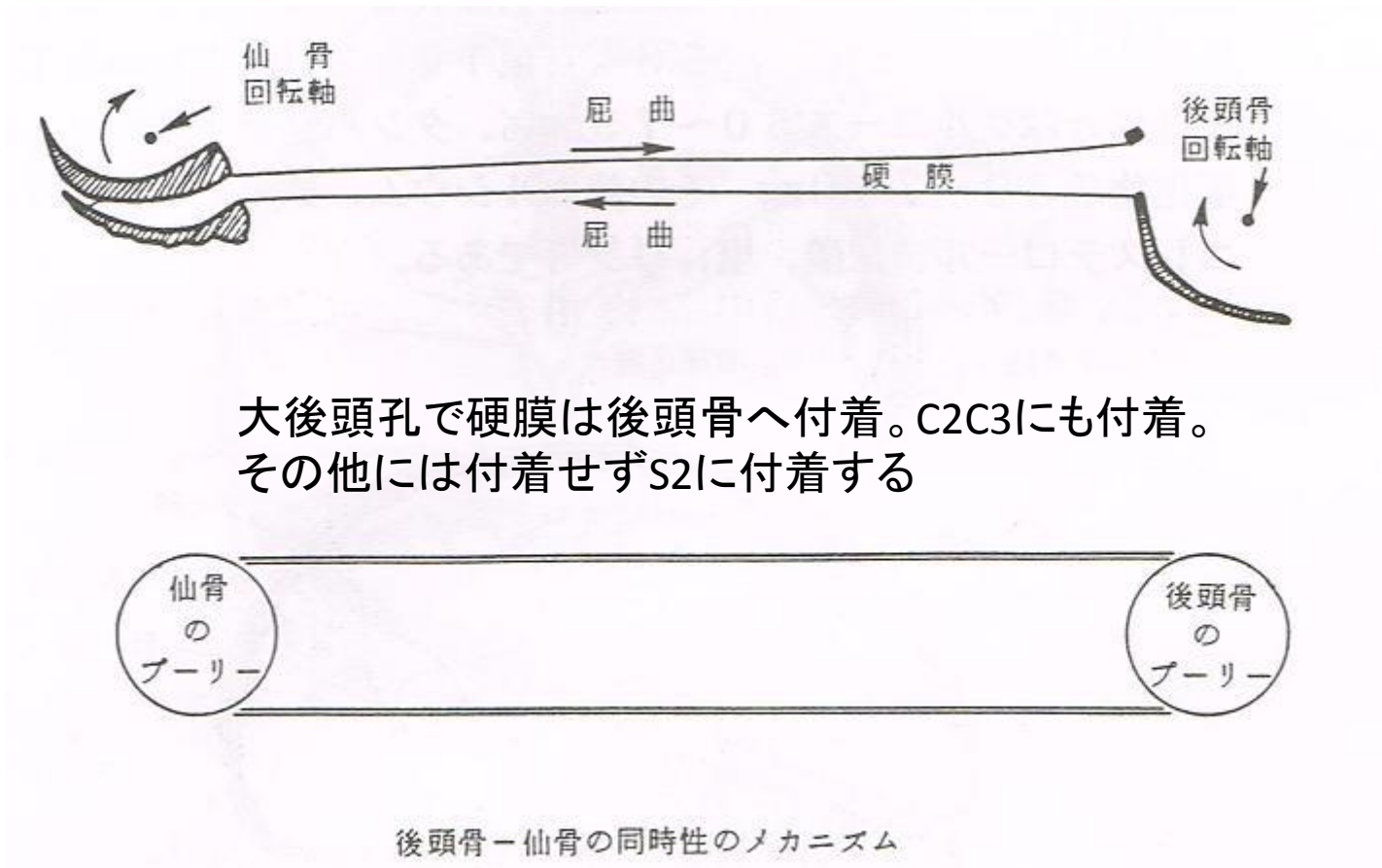
屈曲相

伸展相



屈曲で広がる

頭蓋と仙骨の動き



禁忌

- 脳内出血の急性期
- 動脈瘤
- 動脈奇形
- 延髄ヘルニア
- 頭蓋骨骨折
- 妊娠前半13週と後半13週
- 急性全身感染

リリース方法

①側頭骨

耳のマッサージ、耳を後外側へ引く

②後頭骨

大後頭孔を広げるイメージ、後頭骨に山をつくる

③前頭骨

前頭隆起に触れる、リフトさせる

④頭頂骨

矢状縫合を広げる

⑤蝶形骨

上顎骨との動きをつくる、後頭骨から引き離す

おわりに

- 触ることによってその部位に意識が向き、皮膚や筋膜などの組織から脳へ感覚入力され、その入力が自動的に反応し、自己修正していく。
- 頭蓋骨の調整し、脳への圧迫を取り除くことで自然な治癒力を引き出すことができる。
- 頭蓋骨と胸郭の関連性があるため、骨盤や体幹脊柱の調整を事前に行うことで治療効果が上がる。